

「人に合わせればいいだけの話なのに。」

横浜市立南戸塚中学校 1年 ^{まえだ}前田 ^{ちひろ}千尋

「人に合わせればいいだけの話なのに。」

これが私が最近一番傷ついた言葉です。人からしたら簡単なことが、私には一番難しいことでした。

私の周りではやっているものがあり、周りの人はずっとその話をしていました。でも、何も知らない私は話についていけず疎外感を感じました。そこで私は、それについて調べてみました。周りの人達がそんなに好きな理由はわかりませんでした。わたしはきっと好きになれると思いました。いつも周りではやっているものは好きになってきたからです。今回も同じだと思うのも無理はないでしょう。翌日、私は周りの人に、

「私も好き。」

と言ってまわりました。これが間違っていたのです。私にも好きになれるものくらいあるのに、よく考えもせず言ってしまったことが。その日から、毎日のようにその話ばかりでした。私もだいたいわかるので、話についていくことはできました。しかし、その話をしても全く楽しくはなく、本当は好きではないことがだんだんわかってきました。でも、もうその頃には完全に好きだと思われていて、今更「好きではない」と言える状況ではなくなっていました。少なくとも私は、そうだと思っていました。最初のうちは仲間に入れてもらえたのがうれしくてグッズ集めなどもしていましたが、私はそれを、机の下に入れたままにしていました。お金の無駄遣いでした。周りの人が持っている物を見て、うらやましがっていても、心の中ではどうでもいいと思っていました。今思えば、私は人を騙していたのです。

ですが当時の私にとって、悪いことをしたとか言っている場合ではなくなっていました。毎日が苦痛で、自分を押し殺すことに精一杯でした。周りの人達に見捨てられたら、私は一人になってしまう。それが怖くて、嘘をつき、自分を締め付けていました。さほどの苦勞ではないだろうに、大変に感じられたのは、やはり、私に「協調性」がないからなのでしょう。

どうしたら毎日が楽しくなるかわからなくなったので、私は母に相談しました。母は、

「少し距離をとったらいい。」

と言ってくれたのですが、

「少しくらい我慢なさい。人に合わせればいいだけの話なのに。」

とも言われました。私にはそれが苦しいから相談したのに。そして、距離を置くには私の世界があまりにも小さかったのです。

しばらくして、新しい人達と関わるが増えました。そこでは、もう嘘はつかないようにしました。それでも新しい友達を受け入れてくれました。きっと、あのとき私が「好き」と言わなくても、周りの人達は私を受け入れてくれていたのでしょう。それなのにもっと話に入ろうと欲を出したのがいけなかったのです。

ありのままの自分で過ごすことを大切にして、私の毎日はとても楽しくなりました。もちろん少しは家と外では違いますが、今ではほぼ、変わらないでしょう。今でも時々、あの時の人達に会うと話しかけてくれます。そのときの話さえ、楽しいと思うのです。私はずっと自分のことを、自分を隠しているかわいそうな子だと思っていました。でも本当は、自分から逃げてしまっただけだったのだと思います。

この経験から、私は自分を偽る必要はないとわかりました。それは、自分を偽ることは相手に失礼ですし自分も傷つくとわかったからです。もし、私と同じような経験をしている人がいれば、ぜひ、まずは嘘をつくことをやめてほしいと思います。